

20号記念

「ささえ」

2007年7月発行 情報誌 第20号記念号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所:福岡県田川市伊田4395(福岡県立大学付属研究所 生涯福祉研究センター内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyounet@sage.ocn.ne.jp

HP <http://www10.ocn.ne.jp/npofynet/enter.htm>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

福祉用具はあなたの自立をささえます

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします

床ずれ防止ハイブリッドエアマット「ピーウェーブ」

P-Wave



介護保険貸与対象商品
本製品は福岡県産炭地
域振興センターの助成を
受けて産学官で共同開発
した商品です。



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい…」

介護の質を問いましょう

理事長 豊田 謙二 熊本学園大学大学院 社会福祉学研究学科教授

大手の介護サービス事業者が「指定」取り消しの処分を受けました。予側されるべくして起きたものであり、まずは利用者への継続的なサービスの提供が確保されねばならないでしょう。直接に咎められたのは、当事業所での人員配置等の「不正」ではありますが、介護サービスの内容にも瑕疵があると予想されます。なぜなら、利潤追求のために人件費を基準以下に抑えようとするのは、収入が限られているなかでの主要な方法ですが、コストの抑制があらゆる分野で拡大させるからです。したがって、介護サービスの時間においても、契約以下に実サービス時間を抑えることになるのです。介護の質は、量の場合とは異なり数量的に計ることが難しい。とすれば基準を定めて、実際のサービスをその基準で検証することになります。

ドイツでの「質」の検証方法を参考にしつつ、基準の内容について列記しましょう。

経営体におけるサービス体制の整備

介護専門職や看護・リハビリ等の専門職の整備であり、上記事業所はこの点における未整備の「不正」が突かれたのです。

施設・設備でのバリアフリー設計

利用者が自分の能力で、自由に移動できるためのハード面の整備です。

サービス従事者における研修制度

介護サービスの「質」の向上は、その多くが、「質」に関心を抱き得る従事者の資質に依存します。その研修は技能の陳腐化を防ぐとともに、新しい用具や方法の知見を共有しあるいは知的刺激を得る重要な機会となります。

介護サービスの記録義務

その「記録」は、サービスの「質」という、見えにくいものを見えるようにするための媒体です。「記録」は内部検査や外部検査の対象とされ、また職員内での研修の事例研究の素材として活用できます。

介護サービスにおいては、契約書の作成が義務付けられています。だが、サービス内容が契約通りに実施されているかは第三者評価の介入が必要です。「質」を確保するサービスに徹しようとするれば人手もかかります。事業者に適正利潤を保障しなければ、有能な職員の確保ができないのです。介護サービスを巡る「量」と「質」の確保は、介護の現場からの改革なしには実現しないと思われれます。

新年度会員募集

平成 19 年度の新会員募集中！

会員継続手続きがまだ済んでいない方は更新の手続きをお願いいたします！

NPO福祉用具ネットは会員の皆様の会費で運営されています。活動を継続するためには皆様のささえが必要です。是非会員となってお支援いただきますようお願い致します。

会員になると、年4回の情報誌や研修会の案内をお届けいたします。また研修会は優先的に会員価格で受講できることなどのメリットがあります。

個人入会金 1,000円 年会費 4,000 合計 5,000円

団体入会金 2,000円 年会費 30,000 合計32,000円

賛助会員 1口 3,000円 (1口以上)

*お問合せ先 電話/FAX 0947-42-2286 (*会員の継続の場合は年会費のみとなります。)

運動による介護予防事業の実態と今後の課題

姫路獨協大学准教授

村田 伸

熊本学園大学大学院教授(理事長)

豊田 謙二

特定非営利活動法人NPO福祉用具ネット

大山 美智江

【介護予防事業の実態】

介護予防事業は、各市町村単位で様々な取り組みが行われています。2004年の厚生労働省老健局における各市町村で行われた介護予防事業の実施状況調査によれば、「転倒予防教室」、「高齢者筋力向上トレーニング事業」、「痴呆介護予防教室」、「IADL 訓練事業」、「足指・爪のケアに関する事業」などが実施されています(図1参照)。高齢者が要介護状態に陥った原因をみると、高齢による衰弱、転倒・骨折、認知症、関節疾患が過半数を占め、生活習慣病による疾病以外の原因によるところが大きいことが分かっています(図2参照)。このことから考えると、介護予防のターゲットを転倒予防や筋力向上トレーニング、認知症予防に置いた介護予防事業の取り組みは妥当であると思えます。ここでは運動による介護予防事業、とくに高齢者の転倒予防や筋力トレーニングに焦点を絞り、現在行われている介護予防事業の問題点を整理したいと思います。

【高齢者に対する筋力トレーニングの効果と介護予防事業の問題点】

高齢者を対象に筋力トレーニングを実施し、その効果判定を行った研究は数多くあります。それらの研究をみると、介入の方法は、トレーニングマシンを用いて高強度の負荷を加える運動と、重錘やセラバンドを用いて低強度から中強度の負荷を加える運動の2種類に大別されます。そのどちらの介入方法であっても、筋力増強効果を認めたとする報告が多く、高齢者に対する筋力トレーニングの重要性が示されています。ただし、それらの研究における運動介入は、週3回の頻度で12週間程度行われているものが多く、高齢者を対象とした筋力トレーニングは、少なくとも週2回以上行うことが望ましいとされています。しかしながら、介護予防事業における運動介入は、それほど集中的に行われることは少なく、その効果判定が十分に行われていないのが現状でしょう。その背景には費用対効果の問題が考えられますが、運動介入により筋力が増強することによって、どのような経済効果があるのかを今後明らかにする必要があります。費用対効果を考える場合、高齢者の転倒による骨折は直接的に医療費が発生するため、重要な要素の一つです。

【高齢者に対する転倒予防効果と介護予防事業の問題点】

従来からの転倒予防対策は、大腰筋(股関節を上げる筋肉)や前脛骨筋(爪先を上げる筋肉)の筋力強化や足関節可動性改善のためのストレッチに代表される下肢の振り上げ能力が過度に重視され、振り上げ下肢を支える支持脚能力を軽視する傾向がありました。健常者の平地歩行における足底と地面との間はわずか2～5cm程度であり、高く下肢を振り上げる必要はありません。より必要なのは、つまずいても転倒しないだけの片足で立つ能力だと考えられます。なお、転倒予防としてのバランス練習は様々な方法で行われていますが、その効果の是非は一定しておらず、Buchner(1997)は高強度の下肢筋力強化による介入効果を認めましたが、Hauer(2001)は効果を認めていません。私たちの研究グループでは、足指・足底でしっかりと地面を掴む力を足把持力として表し、要介護高齢者を対象にゴルフボールやタオルを使って、足指・足底で転がしたりたぐり寄せたりする足把持力トレーニング(図3参照)を行い、その運動の転倒予防効果を確認しています。また、転倒予防を目的とした運動介入で高い効果をあげた研究には、Wolfら(1996)の太極拳を用いた研究があります。この太極拳には、筋力強化とバランス機能向上の運動効果が考えられることから、転倒予防を目的とした介護予防事業では、筋力向上トレーニングのみに偏ることなく、足把持機能やバランス機能を含めた総合的な体力の増進プログラムを計画することが望まれます。

【高齢者の運動習慣が身体・認知・心理機能に及ぼす影響】

私たちは、福岡県福智町の介護予防事業に参加している 181 名の在宅高齢者を対象に、散歩や健康体操などの運動習慣の有無を調査し、有無別にそれぞれの身体・認知・心理機能を比較することによって、在宅高齢者の運動習慣が身体・認知・心理機能に及ぼす影響について検討しました。その結果、運動習慣がある高齢者は無い高齢者と比較して、上下肢筋力や歩行能力、活動能力などの身体機能面のみならず、主観的健康感や生活満足度などの心理面ならびに認知機能においても良好な結果が認められ、高齢者が運動を日常的に行うことの重要性が示唆されました。詳細については、次号の「ささえ」でご紹介します。

【今後の課題】

これらのことから、運動による効果的な介護予防事業を展開するためには、積極的な運動(例えば施設を利用したマシントレーニング)を短期間実施するよりも、高齢者自身による運動の自主化および習慣化を促し、長期的な自己管理能力を高めるような取り組みが重要だと考えられます。そこで私たちは、福智町役場、福智町社会福祉協議会、福岡県立大学、NPO 福祉用具ネット会員の皆様ならびに多くのボランティアの皆様の協力を受けて、福智町に居住されている高齢者の健康を支援する取り組みを行っています。(つづく)

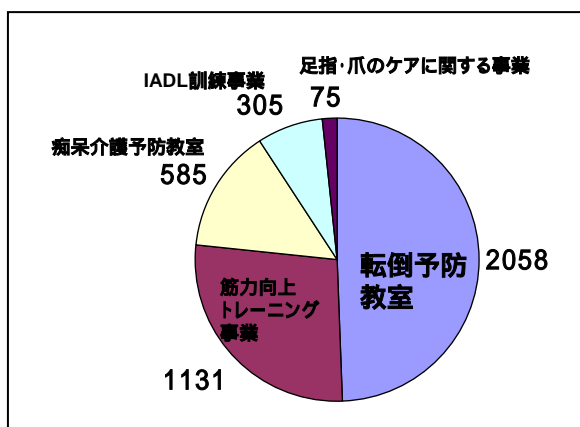


図1 主な介護予防事業の実施状況

市町村数 = 4,154

厚生労働省老健局による調査結果(2004)

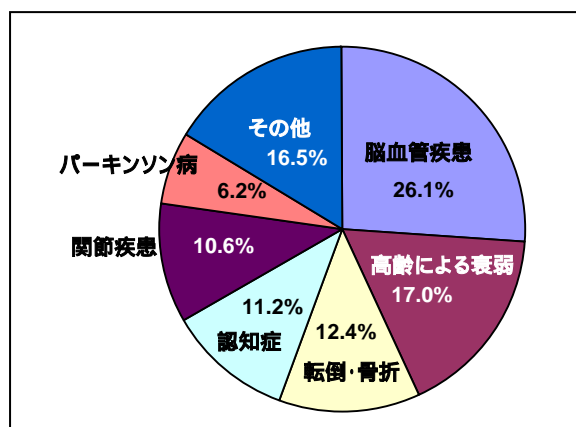


図2 要介護状態に陥った原因

国民生活基礎調査による(2003)



ゴルフボール運動

ボールを転がしたり、足底の前・中・後部で5～10秒間体重をかけながら押す。



タオルのたぐり寄せ運動

足把持力に応じて、タオルの端に500ml～1500mlの水を入れたペットボトルを置き、抵抗負荷量を調節した。

図3 足把持力トレーニング

高齢者に多い病気と予防対策(シリーズ6)

社会保険田川病院院長 吉村 恭幸 (NPO福祉用具ネット理事)

健康寿命を長くするために、今回は脳の働きを良くし、幸せな生活を続ける方法について述べます。

脳には主に6つの領域があります。

まず第1領域の前頭葉には運動の中枢があり、筋肉を動かす命令を出します。また思考や記憶などの高度な精神活動はここで行われています。

第2領域は頭頂葉で、触覚などに関係し、どこが触られているかなどを識別する所です。

第3領域は側頭葉で、聴覚や言語の中枢です。感情に関する情報の処理にも関係しています。

第4領域は後頭葉で、視覚の中枢があります。ここで視覚情報を管理しています。

第5領域は小脳で、筋肉の働きやバランス感覚など、運動機能の調整を行う場所です。

第6領域は脳幹で生命維持の中枢があり、間脳・中脳・橋・延髄からなっています。性欲、食欲、睡眠欲、排泄欲、集団欲など生きていくために必要な動物的な本欲は、すべて視床下部がつかさどっています。

この6つの領域が中心となって皆様のまわりの情報を処理しています。情報入力、見る・聞く・感じるなど、無限ともいえる多くの情報を取り入れています。脳がその情報を識別するために、長く生きてきた高齢者の経験は非常に大切な力となります。

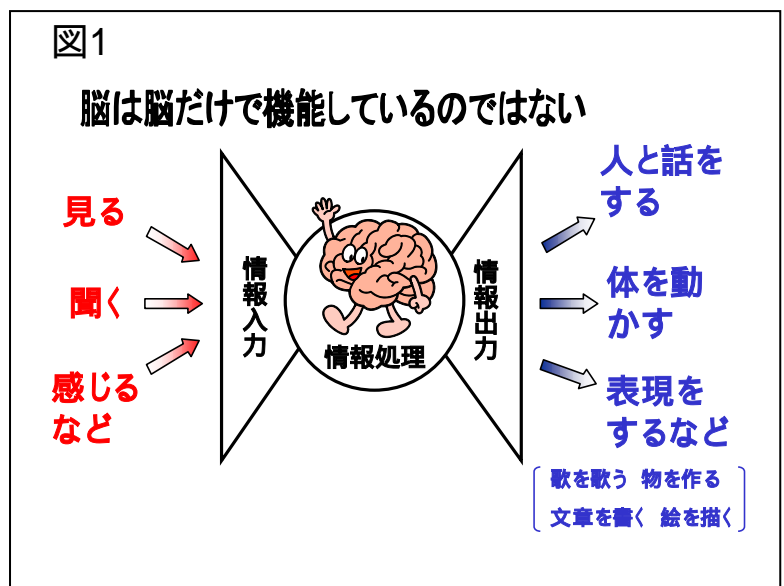
脳の中に入ってきた情報はじっとこもっておくことができないので、人と話しをしたり、体を動かしたり、色々な表現をすることになります。例えば歌を歌ったり、物を作ったり、文章を書いたり、絵を描いたりすることです。お隣の人と話すことの中にも、色々な脳の働きがあります。(図1参照)

脳には常に色々な情報が入ってきて、それらの処理を同時にかつ一瞬のうちにしています。無意識であるから出来ることです。無意識で行動している時は、脳の働きは活発ではありません。意識して行動すると脳の働きはより活発となり、脳を鍛えることが出来ます。

寝ている脳を呼び起こし、活力を与えることで脳を鍛えることが出来ます。

計算や音読を中心とした教材を使って、

脳の働きを活性化させることで認知症の予防や改善を行う療法があります。学習する人と支援する人がコミュニケーションを取りながら行うことが大切です。



東北大学の川島隆太教授らが、fMRI(機能的磁気共鳴映像法)にて調べたところ、複雑な計算より単純な計算や音読をしている方が、脳のより広範な部分を活性化することが判りました。図2はその1例です。この本以外に沢山のトレーニングの本が売り出されています。

人がリラックスしている時の脳波は少しゆっくりした波が多くなります。脳波は脳細胞の電気活動を記録したもので、脳細胞の働き方を見たものです。ストレス状態で脳細胞が活動している時は、速い波が多くなります。笑った時の脳波は波も波も増えて活性化され、やる気を起こさせるようです。活性化ホルモン(アドレナリン等)が増え、癒しのホルモンのセロトニンも同時に増えるようです。バランス良く脳を活性化しながら、かつリラックスさせるといえます。

笑うと脳内麻薬の効果もあり血管が開いて血流が良くなり、神経細胞も活性化し頭の回転も良くなります。また、笑った後は唾液の酸性度が減り、免疫力アップが起ります。NK(ナチュラルキラー)細胞が増加するため免疫力が高まるのです。

笑うことは、脳下垂体が刺激されて色々なホルモンを分泌させ、人が生きていくのに必要な根本の生命活動を自動的に調節する働きがあります。自律神経の中樞が自動制御装置として働き、リラックスモードも作り出します。笑うことで脳内物質のドーパミンの分泌が増え、セロトニンも増加して、集中力が高まり神経ネットワークが発達するようです。ドーパミンが脳の中に分泌されると意識が高まります。もちろん脳も活性化します。ドーパミンの分泌を促すのは「好奇心」です。好奇心こそが、私たちの行動を起こさせる最大の原因となります。いってみれば、好奇心は脳の原動力なのです。


休日に家でゴロ寝ばかりでは好奇心はどんどん枯れて、脳は衰えていく一方です。あれもしたい、これも見たいという気持ちがあるあなたの脳を若く保つ秘訣なのです。

意識的に筋肉を制御して行う運動は、随意運動といわれています。大脳皮質の運動野から指令が発せられ、骨格筋に伝える神経の主要連絡を通して左右反対側の脊髄を通り全身に伝わります。随意運動の指令は、脳の多くの部位が連携して生み出されます。軽い運動でも脳の神経細胞同士をつなぐ神経繊維や樹状突起が増えます。

脳の成長は一生続き、神経繊維などにより神経細胞同士のネットワークが複雑で強固になることです。少しでも運動して全身の筋力を強くすれば、脳の血流も良くなります。(図3参照)

体の不自由な人も、人とよく話しが出来ない人もみんな、現在生きていること、存在していることを有り難いと思うことが大切です。この世に生を授かったからには、元気で長生きをする方が得です。毎日感謝し、何か気持ちが良くなることを探して、新しいことに興味を持ちましょう。脳内物質ドーパミンが分泌されて幸せな気持ちになれます。

お日様の光を浴びて脳内物質セロトニンを増やすと、スッキリした気持ちになれます。少しでも体を動かして、血液の流れを良くしましょう。

図3 **笑顔で上を向いて歩こう** 

感謝: 生きていること存在していることのありがたさ
何事にもありがとうの気持ち
感動の気持ち 心を変える

笑う: 脳の運動野 感覚領域の50%を占める
脳神経細胞を活性化させる
NK(ナチュラルキラー)細胞が増加し免疫力が高まる

好きなこと、楽しいこと:
脳内物質のドーパミンが分泌するから
集中力が高まり神経ネットワークが発達する

運動: 軽い運動で脳の神経細胞を増やせる。全身の筋力を強くし血流を良くする

今、思うこと。「福祉用具の開発に王道なし」(その11)

九州日立マクセル(株)新分野開発部長 坂田 栄二 (NPO福祉用具ネット理事)

「谷間」を埋めるのはだれ？

前号で紹介したとおり、「四角いミニキュービックセルは体圧をしっかりと分散しているが、そのセル間の谷間が、体を支えていない」ことに気づいた松原は、この試作品は理論に走りすぎて大きな見落としをしていたのではと悩み続けていた。

今日は、NPOの理事会の日。松原は、他の理事に開発業務がどれだけ進んでいるかを発表しなければならない大切な日である。いつもなら、会議が始まると人の話に茶々を入れ、議事進行妨害を生きがい(?)としている松原だが、妙に今日はおとなしい。人の話を神妙に聞いているし、下をむいたまま右手の鉛筆の先で、手帳を(トン・トン…)とつついているだけである。拍子抜けというか、体調が悪いのではと心配させられるほどである。

議長の豊田理事長も、いぶかしげに顔を覗き込んで、

「それじゃ、次は松原さん。開発の具合はどうですか？」

「それがですね…、実は…」

と口ごもる。

重い口に業を煮やしたように大山は

「どうしたんね！ さっさと言わんね！ なんか困まっちゃうとね！」

この言葉に背を押されたように、松原はしゃべりはじめた。

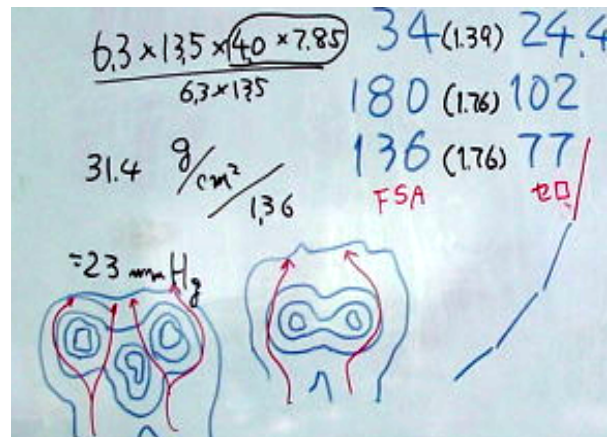
「実は… キュービックセルの間の谷間に不安があって、谷間では体を支えていないんだよ。」

車イスにやや深めに座って聴いていた松尾理事は、松原の言っている意味がわからないとでもいうように、車イスを前に進めて身を乗り出し、

「データを何か持っていますか？」

「いやー、今日は持ってきてないけど…」

横でやり取りを聞いていた坂田は、メモ紙を取り出して、マットの構造を書き始めた。



命名された「谷間効果」

松尾はその絵をしばらく見て、

「これじゃ、谷間に腕や足が挟まって身動き取れないでしょう！」

しかし、この谷間のおかげで、体液は谷間の中を蛇行して

縫(ぬ)うように流れているんじゃないですか？素晴らしいですねー。」

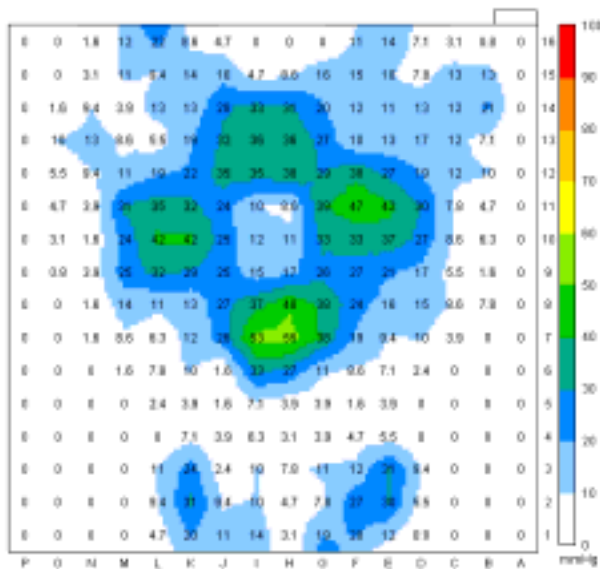
いつもの冷静な口調とは違って、やや興奮気味の松尾であるが、先ほどの絵と天井を交互に見つめながら淡々と解説を進めている。松原は、いつの間にか横に席を移って、松尾の横顔を見つめている。松原にとっては何事にも代えられない救いの手に思えたのであろう。

ここで、松尾の口が止まった。じっと絵に見入っている。

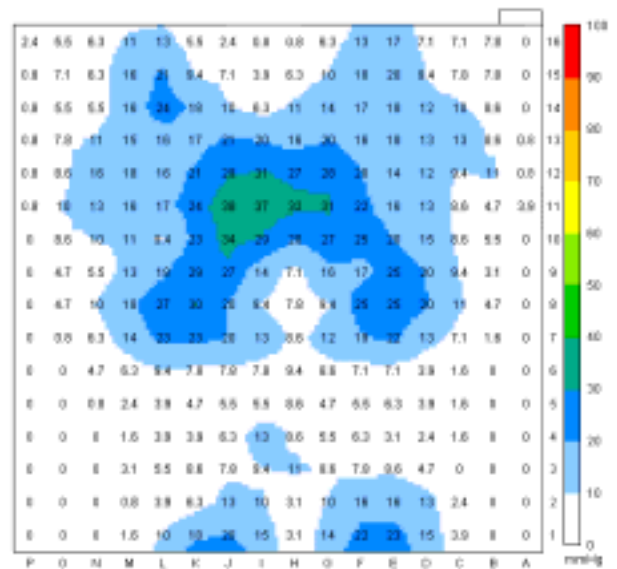
「身動きしやすく、しかも谷間効果を邪魔しない、そんな都合のいい方法は…」

しばらく沈黙。

セル間の隙間による体液の流れを助長する谷間効果が現れた。



セル上に直接寝たときのお尻の圧力分散



セル上に薄いウレタンフォーム敷いたとき

「エアセルの上に薄いウレタンフォームを重ねたらいいんじゃないですか！」

これしかないと言うように松尾は断じた。

唖然とした松原。エアーマットにウレタンマットを重ねる！そんなことで解決するのかなーと半信半疑。ちょっと後ろへ背筋を伸ばし気味に座りなおし、(俺はこれでずっと悩んできたんだぞ)と訴える松原の目。

松尾にはこれを解決する自信があった。彼は飯塚市にある脊損センターの勤務時代に、床ずれ防止マットを研究した経験があったからだ。勘所はわかっている。

「ウレタンマットはどれくらいの厚みがあったらいいんですか。」

「あまり厚くないほうがいいね。3センチくらいで十分と思うけど。」

この日のやり取りが、後に重要な「コンセプト」になるとは誰も思っていなかった。

良いとこ取りの「ハイブリッドエアーマット」

翌日から、開発チームによるウレタンマットの材質選びが始まった。松尾先生が想定したマットは多分こんなものだろうと、あちこち手を尽くし、開発室にうず高く積み上げられたマット。色もさまざま。硬さもまちまち。それらを順番にエアーマットの上に重ねて体圧分散割合を測定し分散パターンを比較した。

何にちかが過ぎた。

それまでのパターンは四角いパターンが交互に膨れて入れ替わっていた(上図左)ののだが、ウレタンマットを重ねると四角いパターンがわずかにうかがえる程度につながっているのがわかる(上図右)。寝心地もゴツゴツ感が無く、やさしくてそれでもってしっかり感もある。まるで快眠布団の様。

ウレタンマットとエアーマットにはそれぞれ長所があるし短所もある。しかし両方の長所だけが出るように複合構成すれば、最高のものができるはずだ。こうして、良いとこ取りをしたマットは、誰からともなく「ハイブリッドエアーマット」と呼ばれるようになった。わかりやすいコンセプトのマットである。

松原の悩みは、解消したかに見えた。しかしまだまだ問題は出てきた。

大山が生涯テーマの1つとしている「自立支援」のためには、このマットの縁(へり)に座れ、さらに、縁から車イスに簡単に移乗できなければいけない。そのためには、エアーマットの縁は硬くてしっかりしたものでなくてはならない。

(つづく)

心ひかれた福祉用具 マイチョイス (シリーズ1)

NPO福祉用具ネット会員 理学療法士 井内 陽三

古くて新しい「布オムツ」

仕事で会う方々によりよい生活を送ってもらうため、様々な福祉用具を探すことがあります。その中で、「これ、おもしろいな」「これは、こんなときに使えそうだな」と思える、福祉用具に出会うことがあります。そんな、ちょっと面白い発見を皆さんに紹介したいと思います。

さて本題へ。最近、心ひかれたもの。それは、「おむつ」です。

「そんなものはどこでもあるじゃないか」と、皆さん思われるかもしれませんが、あなどる事なかれ。最近のオムツの種類の高さには、とてもじゃないけどついていけません。訪問先の家で目にするのは、開封したばかりのオムツやパッドなど、数多くの種類を試した跡。

そこでの会話は、「これ全部(7~8種類)最近使っているのですか」「あまり使えないから(試したが)、これだけ(2~3種類)使っています」との返事。NPOの研修会に参加された方は、「おや?」と思うはず。同時に「なぜ?」との疑問もたれるのではないのでしょうか。

今回は、そんな会話のひとつから調べて、気になったものを紹介します。

介護者：「最近、ポータブルトイレにいけるようになってずいぶんよくなりました」

スタッフ：「それはよかったですね」

介護者：「けれど、最近、ちょっと(尿)出て、間に合わないことが多いんですよ」

スタッフ：「どうしてるのですか」

介護者：「少しで換えるのもったいないので、パッドやオムツを乾して使っているんです」……

こんな会話から探した福祉用具が「布オムツ」です。一昔前のは、さらしなどの加工してない布を使用していたようですが、最近、出ているものは様々な素材をあわせ加工してあるものです。

(参考)

小パッド	吸収量	約200cc 前後
	価格	1000円前後
	素材	綿、ポリエステルなど
	耐久性	100~200回の洗濯



年々、「紙おむつ」の生産・使用は、右肩上がりの状況。しかし、この原料となるのは紙資源、また、その処理に関しては焼却される際に低温度状態を作り出し、結果、発生するダイオキシンの問題などが指摘されているようです。このような状況から数年前より、繰り返し使用できるおむつリースが盛んになっています。諸外国でも、すでに布おむつへ回帰し始めているところもあるそうです。今後は、使用評価が進めば、在宅での利用増加があるかもしれませんね。私も、実際に使用してもらえるようにするため、これから情報収集をしていきたいと思えます。

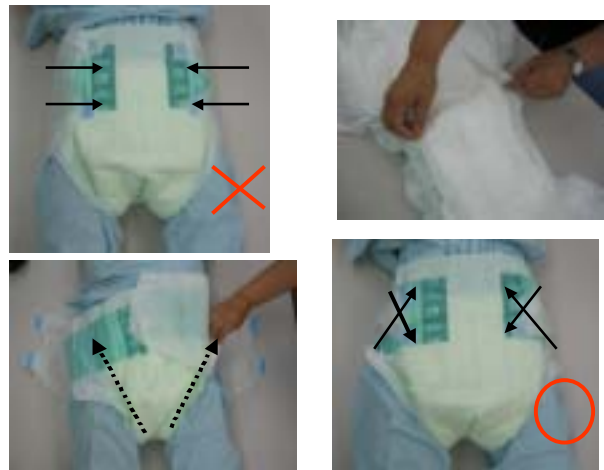
6月2日・3日排泄ケア研修会受講者報告 「排泄ケア研修会」で「えーっ！」と思った2つのこと

NPO福祉用具ネット会員 理学療法士 海尾 美年子

今回の2日間の研修会で、かなり衝撃的だった、「えーっ」と思った2つのことを報告します。在宅サービスを仕事としている私にとって、とてもショックな内容ですが、逆にわかってよかった・・・と研修会を終えて感じています。みなさんも、ひょっとしたら私と同じ思いをされるかもしれません。是非、ご一読下されば幸いです。

その 場面は、テープ型紙おむつと尿とりパッドの当て方の実技でした。皆さんもご存知のとおり、販売されているテープ型紙おむつには止める位置の番号が1、2、3とつけてありますよね。

私は当然そこにきっちり番号のラインにあわせてテープを貼り付けるものだ、今まで何の疑いもなく信じ、そう云ってきました。しかしそれは、オムツに表示されている数字だけにこだわっているだけで、はめる人の太ももの太さや、股関節の動きや尿漏れを防ぐことにはなんら関係ない貼り付け方だという事がわかりました。番号表示は左右対称にするひとつの目安だということです。そして、正しいテープの貼り方を習いましたのでご紹介します。



・紙オムツと尿とりパッドをお尻の下の正しい位置に敷きこむ。

・尿とりパッドと紙オムツのサイドのひだを立て、左右一側ずつ股関節の内側の付け根にしっかりと押し付けるように当てる。キュツ、キュツという感じで当てたまま上方へひいておく。もう一方の手で下のテープを太もものラインに合わせて斜め上方に引っ張り止める。下のテープを左右止めたら上のテープを腰周りがゆるんでない程度に、下のテープとクロスするような感じで斜め下方に止める。これを左右行う。

以上の2つの方法を是非お試しください。股関節の動きやすさの違いは歴然です。サイドのひだをきちんと立て、キュッキュッと左右に押し付ける事で尿もれは随分防げるそうです。

その 1日目の宿題として、「オムツで排尿してくる」といものがありました。私は簡単に「ちょっと気持ち悪いくらいかな・・・」程度の思いで夜の9時から朝の5時までオムツをはいていました。しかし、予想とは裏腹、夜間2～3回確実に尿意はあるのですがあおむけの状態では出ないのです。頭は出していいよと指令を出しているのですが出ないのです。そして、とうとう我慢できなくなり、それでもあおむけでは出ず、横向きで大量の尿が排泄されたという状況でした。今まで私は、夜間の排尿が大変な人に対して「夜だけはオムツにしたらどうですか？」と、いとも簡単に言っていたことがとても罪深く感じるとともに反省させられました。人間の生活習慣としての排泄は座ってすることが基本で、何十年も間の習慣は理屈ではなく、体自身が習得しているものだという事がわかりました。皆さんもまだオムツで排泄の経験のない方は1回経験されることをおすすめします。

以上2つが今までの自分の知識を大転換させる「えーっ」と思ったことでした。

今回の排泄ケアに参加する事によって知る事ができてとても良かったと感じています。ありがとうございました。皆さんも是非一度お試しください。

(研修会のようすはホームページでご覧いただけます。是非いちど覗いてみて下さい。)

平成19年度「福祉用具研究会 9回シリーズ」がスタート!

昨年度の福祉用具研究会はバリアフリーについて全11回シリーズで勉強してきましたが、今年度は福祉用具について9回シリーズで企画しました。既に5月と6月の2回実施いたしましたが、この2回は会場を介護実習室でベッドや車いすを使い、実際に検証しながら行ないました。NPOの体圧測定器を持ち込んでクッションの体圧の比較も行ないました。リハビリの専門職の立場や福祉用具専門相談員、介護の現場や建築の方・開発者など、さまざまな立場から活発な意見交換があり新たな気づきや学びが得られています。2時間という時間があっという間に過ぎてしまいます。この研究会は事前申し込みが必要で28名の方が申し込みをされています。メンバーは遠くからは大分県、福岡市、北九州市、直方市、行橋市、飯塚市からも参加されています。参加者は順番に決められたテーマを事前に勉強してプレゼンテーションを行います。助言者には佐賀大学松尾清美先生や豊田謙二理事長がサポートをしてくれます。

「この指とまれ」でスタートした研究会です。これからもさまざまなテーマを取り上げて、興味ある仲間とともに学んでいきたいと思えます。(事務局 大山)

7月12日 「トイレ・排泄関連」、8月6日「入浴関連」、9月22日「住宅改造と道具の考え方」
10月15日「福祉車両について」、11月5日「コミュニケーション関連」、12月8日「自助具関連」
平成20年1月21日「まとめ」



福岡県から全国に発信!

開発商品の紹介

床ずれ防止ハイブリッドエアマット【P・Wave(ピーウェーブ)】 介護保険福祉用具貸与商品

特長 浮遊感解消、エアマットの違和感少なく快適な寝心地

介護がしやすい 設定は15秒で完了 停電してもエア抜けしない

平成19年6月末現在、P・Wave(ピーウェーブ)の貸与をしている事業所

太陽セランド(株)様 (有)ハートフルハシモト様

【バシーマボックスシート】 特長 ガーゼの素材で肌にやさしく、夏は涼しく、冬はあたたかい。

エアマットだけでなく、介護ベッドのマットにも最適 ペッド幅83センチと91センチに対応

定価10,500円 介護保険対象外

【洗髪シャワー】 特長 片手で操作簡単・ソフトな水流で寝たきりの方の洗髪に最適

定価18,900円 介護保険対象外 【介護シャワー】 定価29,400円もあります。

代理店 キョタ株式会社 TEL 03-3798-3611

開発商品に関するお問合せは「NPO福祉用具ネット」事務局まで 0947-42-2286

事務局からのお知らせ

今年度4月から6月までの活動

- 4月** 理事会 4月23日 高齢者体力測定打合せ
鹿児島福祉機器展 出展応援 その他相談事業等
- 5月** 総会・理事会 5月14日 法務局・福岡県等に対して法律に基づく関係書類等の提出完了
福祉用具研究会(5月28日終了) その他相談事業等
- 6月** 介護者研修会「排泄ケアについて」(6月2日と3日終了)51名参加、
福祉用具研究会(6月14日終了) その他相談事業等

7月からの予定(確定している分)

平成19年度の事業の予定は以下のとおりです。

- 7月** 介護者研修会「介護に携わる方のストレス対処法について」(7月7日予定) 講師 小嶋秀幹先生
福祉用具研究会(7月12日予定)
福智町高齢者体力測定
福祉用具モニター受託事業(2週間)
情報誌「ささえ20号」発行
- 8月** 住宅改修研修会「認知症にやさしい住環境整備について」(8月4日予定) 講師 吉田誠治先生
福祉用具研究会(8月6日予定)
福智町高齢者体力測定
- 9月** 福祉用具研修会「車いすの選び方」(9月22日予定) 講師 松尾清美先生
福祉用具研究会(9月22日予定)
福智町高齢者体力測定
福祉住環境コーディネーター見学会企画委託事業 9月2日、9月14日、9月18日
- 10月** 福祉用具研究会(10月15日予定)
福智町自立支援フォーラム(10月28日予定)
「体力づくりと介護予防の取り組みについて(案)」講師 村田伸先生
東京国際福祉機器展 出展 HITACHIブースから出展 (10月3日から5日)
情報誌「ささえ21号」発行予定
- 11月** 福祉用具研究会(11月5日予定)
西日本国際福祉機器展 出展 (11月16日から18日)
- 12月** 介護者研修会「認知症対象者へのアプローチ法について」(12月1日予定) 講師 佐々木文則先生
福祉用具研究会(12月8日予定)
- 1月** 福祉用具研究会(1月21日予定)
情報誌「ささえ22号」発行予定

会場の変更のお知らせ

8月4日土曜日 住宅改修研修会「認知症にやさしい住環境整備について」 講師 吉田誠治先生

講演会場が変更になりましたのでご注意ください。

当初は福岡県立大学と案内していましたが、都合で太陽セランド(株)研修室(田川市川宮)に変わりました。

*会場の地図はホームページでもご案内しています。不明な方は事務局へお問合せ下さい。